

神楽

文字通り「神のための娯楽」という神楽（かぐら）は伝統舞踊の一つで、最古の伝説に由来しています。その昔、太陽の女神である天照大神（あまてらすおおみかみ）は、弟と争った後、洞窟に隠れ、その結果、世界は暗闇に投げ込まれてしまいました。天照を洞窟から出すために、天鈿女命（あめのうずめ）という女神は洞窟の前で踊り、他の神々を笑わせました。天照は笑い声に興味を持ち、それを見るために洞窟から出てきたので、世界に光が戻りました。神楽は天鈿女命の踊りを模倣し、発展しました。

現在、数多くの神楽系が存在していますが、それぞれ固有の構成要素を有しています。都留市だけでも 30 種類あると言われています。地元では、毎年 9 月 1 日に行われる生出神社の八朔祭で披露される神楽が最も有名です。この時、神社の華やかな彫刻を施した神楽屋台が、200 年以上の歴史を誇る伝統舞踊を伴い、市内を練り歩きます。